

塩尻市が継承してきた「田園都市」について

1 産業革命期の英国都市計画家、E・ハウードの田園都市構想

都市と農村の結婚

- 都市的機能と農村の機能の享受
 - …職住農村の近接、食糧確保、レクリエーション・アメニティ機能
- 循環系をもった独立都市
 - …グリーンベルトによる食糧自給、エネルギー循環

2 本市における「田園都市」の継承・引用経過

(1)塩尻市民憲章(昭和 56 年 6 月 26 日議決)

- だれにも親しまれ愛される豊かな田園都市
 - ・ 田園と都市の調和

(2)過去の総合計画

- 再定義しながら継承・継続して目指す都市像へ使用してきた
- 生活文化の熟成された田園都市(第三次) (平成 3～16 年度)
 - ともに築く 自立と創造の田園都市(第四次) (平成 17～26 年度)

(3)第五次総合計画策定における再定義

ハウードが提唱した田園都市構想の考え方(都市と農村の結婚)を踏まえつつ、本市の持つ特性や強みを最大限生かして、将来にわたって選ばれるまち

- “暮らし良さ”
- “豊かな自然と農村風土”
- “知識と情報の高度な活用”
- “大都市・近隣都市との交通利便性”

(4)これまでの蓄積と、社会潮流を踏まえ、目指す意志を示すキーワード

- 持続可能(サステイナブル) 自立をさらに進め、30年後にも選ばれる
- 新たな協働 協働のまちづくりを基調に、進歩的な考え方を付加
- 築く⇒創る 協働の市民社会の基礎を築く⇒仕組みを創る。へ前進。
- 豊かで確かな暮らし 暮らしやすさに磨きをかける都市ブランド化

第五次総合計画(平成 27～令和 5 年度)

目指す都市像 『確かな暮らし 未来につなぐ田園都市』

3 国の動向

○デジタル田園都市国家構想(令和4年6月7日基本方針閣議決定)

デジタル技術が急速に発展する中、デジタルは地方の社会課題を解決する鍵、新たな価値を生み出す源泉として、

デジタル技術を活用して「地域の個性を活かしながら、地方の社会課題の解決、魅力向上のブレイクスルーを実現し、どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」

を目指すもの